



Home > 早期発見のために > がん検診(消化器) > 食道・胃

がん検診(消化器)

食道・胃

< 定期検診 >

上部消化管(食道・胃・十二指腸)のがん検診は職域や地域により差がありますが、おおむね30歳以上の人を対象にまず、X線検査や血液検査が実施されているようです。職域や地域で毎年1回行うのが一般的です。X線検査で異常の見つかった人は、精密検査として内視鏡検査や血液検査などを受けます。

< 発見率 >

2001年度に胃の集団検診(X線検査)を受診された人は約532万人です。そのうち精密検査の必要があると判断された人は約10%で、がんの発見された人は0.102%(5,410人)でした。このうち追跡調査の行われた3,891人では、69.6%(2,709人)が早期がんでした。

一部の機関を対象とした内視鏡胃集団検診の集計によると、0.29%に胃がんが発見され、うち0.20%が早期がんでした。年齢による統計学的な補正などは行っていないため、単純な比較はできませんが、内視鏡胃検診のがん発見率の高さを印象付けるデータとなっています。

また、内視鏡による食道集団検診の受診者は約44万人で、がんの発見率は0.01%(451人)でした。

(平成13年度消化器集団検診全国集計資料より)